

放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 23 年 1 月 26 日(水) 18:30～19:30
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 8 名 出席委員数 7 名 欠席委員数 1 名

出席委員の氏名

水間 忠秀／濱田 百合子／宇都宮 英之／寿 浩義／再田 美紀／北之園 千春／久岡 久乃

欠席委員の氏名

築地 理昇

放送事業者側出席者名

麓 憲吾／丸田 泰史／中原 優子／元井 庸介／宮田 愛

4 議題

番組内容の審議(「おるみさんのおばチャンネル」について)

5 議事の概要

- (1) 豪雨災害放送シンポジウムの報告について
- (2) 番組内容の審議(「おるみさんのおばチャンネル」について)
- (3) 1 年の総括について

6 審議内容

一放送局 丸田より、審議会への出席のお礼、出席委員数が7名、欠席委員数が1名、であることが連絡された。

(1) 豪雨災害放送シンポジウムについての報告

一放送局 麓

奄美豪雨災害から3ヶ月目の1月20日に、私たちの行った災害放送について、実際に聞いているか方々がどのような形で私たちの情報を受け止めたのか、現場とマッチングしていたのかを検証するため、リスナーさんをお呼びし、シンポジウムを行いました。私たち11名は、ラジオ局の中に居ながら、各所から情報を頂いて、必要と思われる情報を放送したのですが、(現場とずれがある情報を流しても)、気づかずにこれから起こりうる災害でも同じことを繰り返すことになると思い、ここで検証しておく必要性を感じたためです。

シンポジウムでは、阪神大震災や中越地震を被災されたコミュニティラジオ局の方々や、防災危機管理に長けた方々などもお呼びして、客観的なご意見をいただきました。会場には、200名ぐらい集まっていただけました。皆さんからいただいた意見としては、龍郷町の職員からいただいたものですが、私たちが行なった交通情報により、渋滞を引き起こした例などがありました。支庁からいただいた情報を、そのまま具体的な迂回路を案内しないまま放送してしまい、リスナーを適切に誘導できなかったことなどが反省点の一つとして挙げられました。また、後半で議論になったのは、安否確認のために、避難者の名簿読み上げについてどうだったかということについて、会場のからは、「もし避難所にいたとしたら、私も(自分の名前を)家族、身内に伝えたかった。」などの意見をいただきました。全ての方がそうだったかなどについては、難しいところであり、災害の最中、そういった判断をしてしまったのはどうだったのか、まだ整理がついていないところもあります。

また、神戸のコミュニティエフエムさんなどにもご意見をいただいたのですが、災害時の判断というのは、終わってみて検証してみれば確かにということもあるのでしょうか、少ない人員のなかで行う放送ですから、地域のリスナーさんと連絡し、情報の交換を行うのが理想であり、普段からの、日々のコミュニケーションを大事にした関係作りが、まず大切ではないかとのこと指摘をいただきました。それを私たちがこのたび重々感じたところであります。100名以上の方々のアンケートを元に、また今後、起きてほしくないけれども、起こりうる災害にそなえ、きちんと検証を行いたいと思います。

(2) 番組内容の審議(「おるみさんのおばチャンネル」について)

水間議長

それでは早速番組内容の審議ということで、「おるみさんのおばチャンネル」についてのご意見を、寿委員からお願いします。

寿委員

聞いていて、聞きやすいというのと、少しの期間、聞こえていなかったのが(番組を休止していたのが)、また聞こえてきて、ああまたやっているねと思っていました。普段聞いている中で、あの人の話は聞きやすいというのと、島らしくはないのだけれども、内地らしくもないから聞きやすいというか。話の中身も日常的なことから話しているの、聞いている人も身近に感じて、聞きやすいのではないかと思います。

濱田副議長

昭和の香りがして、選曲もバラエティがあって、馴染みやすいというか、肩肘張らずに身構えることもなく、ニュース性も入って、「あ、この方もこう思っていたんだ」という共感を得られる番組だと思いました。音楽が入るにしても一時間という番組で、楽しみにされている方が多いのではないかなと思いました。実際の番組を長く聴いていないので、どういう方がやっているのかなと思ってホームページを見てみたのですが、出てこなくて、おるみさんのおばチャンネルで検索したら出てきて、この人、我那覇美奈さんのお母さんに似ているなど。名前が書いていないので分かりませんでした。先日もお伝えしましたが、パーソナリティの顔と、簡単なプロフィールがあると、(それぞれの番組に)もっとはまるかなと思うのです。我那覇美奈さんのお母さんということをお伏せておきたければ別ですが、どのぐらいの年代なのかなども。正確な年齢まではいいのですが、大体の年代ぐらい入っているといかなと。

それから、前聞いたときに、某ペンションの方がラジオに出て、「浅川マキが好き」とおっしゃっていて、私も好きなので、(おるみさんが)この人に似てるなあと考えていて。他の方も浅川マキが好きという話で盛り上がったことがあり、そういうことで広がる関係などもありますよね。そのペンションの方は特に番組をお持ちでないですよ？ラジオに出たことはないですか？でも声が少し違うなとも思ったのですが。

一放送局より、「以前出ていただきました。(二人は)親戚か何かですよ」という情報が入る。

そうなんですか！彼女もいろいろなことをやっておられて、とても面白いですよ。

あと、「英会話のオバ」と、「おるみさんのおばチャンネル」の、「オバ」と、「おば」が混同してしまうところがあります。「おるみさんて何？英会話のではなくて？」というか。あまり番組に詳しくないので。同じように、あまり聞いていない人が、英会話のオバと混合しやすいタイトルなのではないでしょうか。

北之園委員

番組が時間的にリアルタイムでは聴けないので、感じ方がどうかということはあるのですが、話もやわらかくて面白くて、このトークでどの曲に持っていくのかなという楽しみがあります。ああそうくるか、という時もあれば、ストレートに直球勝負にきた、とか。そういう意味では一時間楽しませてくれるなあという番組ではあります。たまたま再放送の時間帯に車に乗り合わせると、ドライブをしながら気持ちよく聞ける、そんな感じがします。

久岡委員

全体的には非常に楽しい番組だなと思って聞きました。あえて小さいことを2〜3点と思うのですが、最初に、私は普段はあまり聞くことができないので、「なんの番組だろう」と思いました。CDをいただいたときに、この番組は主婦目線での・・・などの情報をいただいていたので、そういった情報が先に頭に入るといいなと。いきなり「虫が・・・」という話が始まって、この話は前フリなのか何なのか、落ちどころが分からず、もどかしいところがありました。どんな展開になって、何が言いたいのだろうと、そういう風を感じたのがところどころありました。また、面白だけに惜しいなと思ったのが、メールの紹介のところで、島口についてのものがあつたのですが、「これはどういう意味でしょうかね？」ときたので、その後説明がくるのかと思いきや特になく、「そこが知りたい！」と思ってしまいました。あと、後半の方に、大浜の夏フェスがすごかったですね〜ときたので、どういった催しがあつて・・・と説明がくるかと思いきや、やはりなく、もどかしかったです。その直後、ヘルパーズもすごいですねといつて、ヘルパーズがミュージカルと分かっている人であればいいのですが、ヘルパーズを知らない人には、ヘルパーズって何だろうと聴いていてもどかしさがありました。そういったもどかしさが、2〜3点あつたので、おるみさんとしては、自分で話の柱を立てておられるのでしょうか、聞く側にも、もう少し何の話をしている、などの目次的なものが分かれば、より聞きやすいのではないのでしょうか。

全体的にお話し上手で、若い頃によく聴いていた深夜番組みたいで面白く、また、曲の選曲の仕方とてもいいなと思いました。

再田委員

ラジオのリスナーさんは、いろいろなタイプの方がおられると思います。私はいつも仕事をしながら聞いているリスナーですので、あえて、仕事をしながらラジオを聞いてみました。従って私は細かいところは特に気にせず、はしょって聞いています。いつも途中から、「今なんの話だったっけ？」という感じで、途中から聞いて流れが読めないリスナーさんも居る、という目線なのですが、ところで、この方は主婦という見出しなのに、すごいおしゃべりが上手だなと。一時間も、相方がいなくて、こんなに聞き心地よくしゃべれるってすごいなと。あと、途中途中で、全てを聞いていない人がいるのは、それはそういうスタイルでいいと思うのですが、一時間お話する中で、音楽もひとつのコーナーと考えると、目玉のとなるコーナーがあると、途中から聞く人も入り込みやすくいいのかなと思いました。子育ての相談受付コーナーや、お買い得情報、主婦の知恵を生かしたりリサイクル情報などあれば、メリハリがあつていいのかなと思いました。先ほどの意見で、おばちゃんとオバと聞き違いがあるということですが、オバの場合は、番組の最初に「島口と英語を一緒に覚えようというコーナー」という説明があるのですが、おばチャンネルもそういう説明を少し加えると聞き分けが、タイトルと一緒にできるようになるのではないかと感じました。以上です。

宇都宮委員

なるほどいろいろな聞き方があるものだなと思っています。番組の資料を貸していただいて、「おるみさん、おばちゃん」という言葉から、どの辺の年代層を狙ったものかな？と考えました。もっと「おばちゃん」の年代を狙

った番組かと思って聞いたのですが、聞いてみると、「違う。若い。」と思った。曲は、私の年代とラップする。不思議に思って、もしかすると、若いけど「おばちゃん」を作ろうとしているのかなと。オバちゃんだったらもっと安売りに関する話とか。「英会話のオバ」が上の年代で、その他、スタッフの若い番組、その間の世代を狙うのかと思いきや若い。イメージ作りというか、先入観とギャップがある番組と感じました。これからを期待する番組です。

築地委員

いいですねー。昭和の香りぷんぷんで。昔、私が坊主頭で顔のにきびが気になってしょうがなかった頃に深夜よく聞いたラジオのテーマソングにはじまり、雰囲気といい、流れる音楽といい、なにか懐かしく、時間がゆっくり過ぎていく感じ(今風にいうとまったりとした感じ、ですかね)がしました。この番組のコンセプトがどこにあるのかはわかりませんが、44歳の私のおじちゃん心がちょっとくすぐられました。逆に、私より若干若い20前後の方々はどう感じるのでしょうか？少し知りたい気がします。いずれにせよ、少なくとも私の世代にとってはまったりとした時間を過ごせる番組ではないかと思います。惜しむらくは、視聴者とのやりとりがもう少しあってもよいのかなと思いました。例えば、視聴者からのメールを使つての話題づくり、視聴者思い出の曲のリクエスト等など。身近な人の話は興味そそられますよ。

水間議長

前から聞いたことはあったのですが、同世代の、女性、主婦層との共通の話題を話されているのだと思うのですが、主婦の方々がこの時間(再放送は夜ですか。)聞けるのかなと思いました。そこがどうなのかなと思いました。

番組自体は、生であれだけの時間を、曲や話題を決めていても、変な間も空かずに、あわてて早口になることもなく、すごいなと思いました。僕は世代的に近いので曲もすぐ分かるのですが、若い世代からの問い合わせはあるのでしょうか？20代の人たちは曲が分かるのでしょうか？高校生や若い子達が、この曲いいな、タイトルはなんだろう、というような、問い合わせはあるのかが気になりました。

もうひとつは、「おじチャンネル」はないのでしょうか？自分達が若かった頃の曲はこれだよ、みたいな。女性と男性の目線が違ったりするので、そういうパーソナリティーがいて、別番組でそのような番組があっても面白いかなと思いました。40～50代の男性が興味もって聞く番組が無いなと思って。ニーズがあるかはわかりませんが、世代的には抜けているなど。こんな曲知ってるか、とかこんな映画知ってるかとか。多分時間帯は夜の放送になるのでしょうか。

—放送局 中原より

ひとつ聞きたいのですが、おるみさんが番組を始めて(途中やめたりもしながらですが)もう3年になるのですが、途中、タイトルを変えました。前は「おるみさんワールド」としていたのですが、今のお話をきいていたら、その方がしっくりくるのかなと思うのですがどうでしょうか。

久岡委員

「おばあ」と「おばちゃん」の題名が混同して分かりにくいといわれましたが、私は特に気にならなかったのですが、それは、私は島生まれの島出身で、「おばあ」と「おばちゃん」の使い分けができていからかと気づきました。

—放送局より

こちらでは標記イメージなどがあるので、使い分けているつもりでしたが、タイムテーブルなどを見ないと分からないことで、気をつけないといけませんね。英会話のオバは「OVA」、おばチャンネルは「おば」です。

- ・ 番組表などが手元になれば分からないですもんね。
- ・ いつも聞いている身としては、聞こえてくる声や雰囲気、ああ、この番組か、とか思っているけれども、題名までは覚えていません。
- ・ この番組は、おるみさんがやりたいということでされたのですか？

—放送局より

開局構想を練っている段階から、ラジオ番組をするのが夢だったとおっしゃっていたので、開局後、こちらからお声掛けしたところ、やっていただけるとのことです。特に勉強やお仕事をされていたということではないようですが、ラジオをよく聞いていて、そういったことを目指しておられたようです。

- ・ 番組のコンセプトについては、どのようなものでしょうか？

—放送局より

3年間、リスナーからのリアクション、まわりの知人などからの感想などを聴いて手探りしながら進めている感じですか。一番いいのはリスナーからのメールやハガキをいただいて、某人気ラジオ番組のようにリスナーのメールなどとの対話形式で番組をしたいのですが、なかなかお便りが来ないのでいろいろ方法を変えてみえています。半年に一回ぐらいのペースでがらっとコンセプトを変えています。例えば、おるみさんワールドの時は、もう少し時事ネタを入れたりしていました。（「時事ネタ」を「ジジネタ」と思いちがえて笑いがおき、「ジジネタ」として、「うちのおじさんのネタ」のようにおばちゃんらしい、共感して笑えるコーナーなどあっても面白いという意見がでる。）ターゲットをおばちゃんだけにしたくないということで、「おるみさんワールド」にタイトルを変えたのですが、おるみさんワールドという言葉がなかなか浸透せず、リスナーも「おばちゃんねる係」でメールを送ってくるので、名前も、変わりすぎたコーナーも元に戻しました。

- ・ 昭和のイメージを狙うのであれば、奄美自体が昭和の原風景を残した島ということもあり、工夫さえすれば、いい方法があるのではないのでしょうか。
- ・ ボランティアを含めて、パーソナリティの方さえよければ、番組やパーソナリティのプロフィールなどを見れるとページがホームページ内にほしいと思います。たまたま番組を聴いた人が確認できるような。そこでお便りを募集するなどすればいいのではないのでしょうか。

(3) 一年の総括について

水間議長

1年の総括ということで、この1年を通しての感想、ご意見をお願いします。

寿 委員

職場でもお客さんに聞いてもらうようにFMを流しています。審議委員になると、いつどの番組のことを聞かれるかと思って普段から意識的に聞くようにしています。聞きやすいもの、面白い感じだなと思うと仕事の途

中でも自然に聞き入ってしまったりするのですが、幅広くまんべんなく聞こうと心がけています。仕事をしながら聞くので聞き流しがちになるのですが、それでも昼と夕方が生放送は、結構聞くようになりました。シンポジウムじゃないですが災害のときはこれしかなかったの。一言でいうならオッケーです。これからがんばってください。

濱田副議長

うちの事務所では日常的にラジオはつけっ放しにしているのですが、残念ながらあまみエフエムの電波が入り辛く、聞くことができません。どの番組も、人数が少ない中で可能性を探っているんだなあと思っています。島外の、都会に住む出身者も、そうでない人もやはり聞きたいと思っている人は多いと思うので、インターネットでの配信も考えていってほしいです。

北之園 委員(図書館長)

審議会に参加するようになって、ずいぶん一生懸命きくようになりました。がんばってらっしゃるなあと思いつつ聞いています。個人的にはディお茶どが好きです。身近に感じられて、話がおもしろいなあと思っています。あと、図書館で、毎週金曜日、と月に一回の土曜日、情報を提供させていただいて、ずいぶん助かっています。番組を流すことによる経済効果をはじき出すと、700万円とでました。それは一年間の本の購入代です。そういうところでも感謝しています。

久岡 委員

まずは自分があまみエフエムを聞きたいときに聞ける環境をできるだけ整えていきたいと思っているところです。審議会のために聞いたものはどれも、島の人たちがこうやってがんばっているということが伝わってきて、そして標準語ではない言葉が流れてくるだけですごくうれしいと思いました。こうやってがんばっているんだ、ということが、心強くて楽しくて、面白く聞かせていただきました。どの番組でも少しずつ感じたことなのですが、1年ぐらい前に、電話で月一回の中継を受けていたのですが、「何の打ち合わせもしません、その日のことを聞かせてください」と言われていました。でも、ありのまま自然のまま、いじらずに作るよさもあると思うのですが、できれば準備をして出演したほうが、聴きやすくて、あきない番組を作れるのではないかなと思っていました。いろいろな人がいるとは思いますが、私は緊張しながら「何を聞かれるんだろう」と思っていて、フリートークでは、あまりいい話ができないので。そこは事前の打ち合わせをもっと許す雰囲気があってもいいのかなと。あとは、メール投稿での参加などもしたいと思っています。今後ともよろしく願います。

再田 委員

今日ここにきて、今回が最後だと気づいたのですが、振り返ってみるといろいろと自分の中で変化がありました。審議委員をする前は、あまみエフエムを時々通勤時に聞いているぐらいだったのですが、審議委員として関わるようになってから、聞き手として、受け止め方が変わってきたということがあり、そして何よりも、集中豪雨がいった際、自宅の龍郷町がエリアに入っていない中で、聞けないことで逆にラジオの重要性を感じて、水害のあと、聞けなかった笠利の職場に、十数万円かけて、ラジオのアンテナを立てました。(水害前には、かかる費用を思うとじゃあいいや、と思っていたのですが、笑)観光客の方々や、いろいろな方が出入りされるので、ラジオで島の雰囲気を楽しんでもらっているのではないかと思います。見えない音の世界なので、龍郷町に、聞こえない音の谷間というか、ボーダーラインがあってはいけないと水害を通して感じました。今回で審議委員としては終わってしましますが、今後の可能性については考え続けたいと思います。インターネット配信であれば聞けなかったとか、水害をポイントに当てると、ラジオだからこそその需要など、見えてくることがあると思います。今後も、リスナー

として問題意識をもちながら、同時に龍郷町民として、ネットワークを広げていけたらなと思いました。ありがとうございました。

宇都宮 委員

一年の総括として考えると3点。

まずは、災害時も含めて、あまみエフエムの可聴エリアについて、この1年ほど気にしたことはありませんでした。観察の森では、駐車場では電波が入るのですが、事務所ではほぼ入りません。アンテナを張り巡らしてボリュームを上げて聞いたりしているのですが、可聴エリアを広げていくと、発信はできるけれども、正確な情報を集める、ということについて大きな課題ができると思うのです。勝手な情報をどんどん流すと錯乱する可能性もあり、咀嚼された正しい情報をなるべく速やかに、どの集落からも送れるようになれば、可聴エリアを広げることが生きてくる。これからいろんなアイデアが出てくると思うのですが、次に、防災無線の可能性について。宇検村の防災無線を考えたとき、龍郷町の防災無線は、聞こえないところが多い。防災無線の箱が壊れている家が多いためです。そこにスピーカーで流すのですが風向きによって全然聞こえなかった。そんなときに小さいエフエムラジオがあればどんなに助かるかと思いました。

最後に、なにより手作りであるということ。知っているメディアの中で、こんなにこじんまりとしてやっているところはない。これからも一緒に工夫して、協力してやっていけるところはコソシかない。内地でもなく、沖縄でもない奄美を表現したいとき、あまみエフエムが一番、心強い仲間ではないかと思いました。以上です。

水間 委員

普段、ラジオは聞き流しているところがあるのですが、この1年(というか、私は結局2年ですが)皆さんの意見を聞きながら自分の、ラジオの聞き方が変わってきた気がする、というのが感想です。とにかく災害ですね。現地にいたということもありますが、ラジオがあったからよかったということがあるのですが、今思うと、ラジオがなかったらものすごい混乱が起きたのではないかと。地元で、自分達で情報を出せるって言うのはこんなにすごいことなんだということに気づく、いいきっかけになったなとも思います。先日の、災害シンポジウムの時のチラシに「サイマルラジオを検討中」と書いてありましたが、島外の出身者だけでなく、ファンの人たちも、沢山の潜在的なリスナーがいるはずであり、島外の人たちが聞こえるようになれば、もっと応援を集めることができるようになると思うので、一日も早い実現を望みます。以上です。

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ① 自社放送:平成23年1月29日(土曜日)17:30-「ゆふいニング・アワー」番組内で放送
- ② 書面の備置き:平成23年1月29日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を当法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応
- ③ インターネット:平成23年1月29日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし